

会 議 録

会議の名称	第3回 杵築市行政改革推進委員会
開催日時	令和元年9月19日（木曜日） 午後1時30分から午後4時10分
開催場所	杵築市役所本庁舎 2階 第2会議室
議 題	別紙のとおり
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 ■発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>議事</p> <p>(1) 事業評価を行う事業の選定について</p> <p>(2) 第3次行政改革大綱実施計画の進捗管理について</p> <p>(3) その他</p>	
審 議 内 容	
<p>○総務課長：ただいまより令和元年度の第3回の杵築市行政改革推進委員会を開会する。（欠席者報告 1名欠席）</p> <p>（委員長あいさつ）</p> <p>○総務課長：議事に入る前に、財政課長から第3次行政改革大綱実施計画の財政課の取組項目の進捗状況について、全体的な説明を申し上げる。</p> <p>○財政課長：まず、総務課長からあったが、今日はお詫びに来ている。第3次行革大綱の中で34番健全な財政運営から4</p>	

4番料金等の見直しということで、財政課の取組項目ということで、取り組んでいるが、8月29日の新聞報道で、平成30年度決算において、経常収支比率が100を超えて100.9%になり歳出抑制不足ということで、大きな見出しがついて報道がされたところである。委員の皆様におかれましては、この3次行革大綱の審議をいただく中で、それぞれ審査、ご指摘をいただきながらやってきたわけであるが、その結果として反映ができなかった、取組が甘かったと、私も議会の中で答弁もさせていただいた。また、委員の皆様にもご心配とご迷惑をおかけしていることをこの場をお借りしてお詫びを申し上げる次第である。それぞれの取組に関しては、できた部分、それから不十分な部分それぞれあるが、この3次行革大綱というのは改めて読み返してみると、実現できればすばらしい行政改革大綱になっている。とは申しても、結果として30年度決算がそういうことだったので、今後どうしていくかということでまた議論の中で総務課長からも説明があらうかと思うが、早急に行財政改革チームを立ち上げてそれぞれ行政部門、財政部門ということでワーキンググループを作って、内容を検討する。財政については、歳入の確保と歳出の抑制という言葉にすればその通りだが、そのようなことを具体的に検討していく。その中で当然この行革委員さんにもご意見お伺いしながら、また取組項目をお示ししながら検討し

ていきたい。さらにいうと第3次行革大綱が令和2年度までの計画となっているが、今後4次大綱への前倒しも含めた中でもっと取組を強化するという検討を重ねて参りたいと思っているので、その際にはご意見をいただくことになろうかと思うが、どうぞよろしくお願ひしたい。委員さんの新聞報道見られて、お気持ちや意見等があれば、お聞かせ願えればありがたいと思う。

○総務課長：財政課長から市の取組も含めて、反省も含めてであるが、この会がそういった意味ではすごく大事な会であるので、思いやご質問、ご意見があれば、この機会に是非お聞かせ願ひたいと思う。9月末から10月にかけてワーキンググループ立ち上げ、そしてその上にプロジェクトチームを作り、12月までに議会にお示しするというさっき財政課長が申し上げたスケジュール感もあるため、4名の委員さんおられますので、ご意見ご質問いただければと思う。

○委員：具体的には、プロジェクトチームとワーキンググループで何をするのかがわからない。

○総務課長：まず、先ほど申し上げた行革部門のワーキンググループについては、組織や働き方に係わる業務の効率化、人員の適正配置などの課題について検討をする。今も実は職員の適正化計画に基づいて実施しているが、より人員配置の適正化を目指していく。また、働き方、それから決裁区分とか組織内におけるいろいろな意味での改革をす

る。財政部門のワーキンググループでは事業の見直しを検討する。新年度の予算編成もあるし、現状の予算も先送りできるものがないかというものも含めて、ワーキンググループで検討する。ワーキンググループは9月中にメンバーを決める。メンバーはこれまで財政や行革に係わった人や福祉、教育、政策など係わりのあるところから選ぶ予定である。人数はそれぞれ2つのワーキンググループは8～10名くらいで考えている。隔週か毎週1回くらい開催し、それぞれの課題解決の内容の洗い出しを行い、検討していく。その2つのグループの案をプロジェクトチーム（仮称）に挙げていく。そのプロジェクトチームはというのは、市長、副市長、教育長、関係課長、それからシティマネージャーで構成され、挙がってきたものについての精査をするということになっている。また、外部の有識者の方の評価、チェックやアドバイスをいただきたいということで、外部の組織を作りたいと思っている。これは5、6人を予定しており、まだ人選段階であるが、この行革推進委員の委員長、副委員長さんについては、一応私どものほうから是非メンバーに入れていただきたいという思いを持って、今臨んでいるところである。現在言えるところはそういうところであるがそれも早急に組織したいと考えている。

○委員：だいたいそんな感じかなと思った。

○総務課長：はい。

○委員：どんなやり方をされるか、特にこれを簡単に言うと赤字だから黒字にしようという理解でいいのか。

○財政課長：はい。

○委員：そうすると私長い会社人生でいつもそういうことは繰り返して起こっていた。そのときに一番大事なことは、市民である。今、赤字ならば、黒字化計画というのを作って示さなくてはいけないと思う。いわゆるそれが目標になると思う。先に延ばせる事業は延ばすと言っていたが、まさにその通りであり、単年度毎にこれとこれとこれをやめて、あるいは今持っている予算を無条件に5%ずつ切ってくれと、むしろもう聖域はもう作らない。とりあえず5%切ってくれと。それでどんな計画ができるんだという計画を是非作ってほしい。それがないと計画に携わっていない人は、どういう進捗でものが進んでいくかというのがわからないから、応援のしようがないし、それから実際に携わっている人は、計画を作った以上はやらなければならないと切羽詰まった感じになってくるから、自分たちも追い込めるし、周りからも追い込まれることになる。この計画を作った方がいいと思う。ちょっと失礼な言い方になるかもしれないが、市や県や役所ではどこでもそうだと思うが、そういう追い込んでいく計画を作ること、黒字化計画を作っていくということを、苦手なのかやりたがらないのかわからないが、やらないような気がする。それは口先だけではなくて是非やって

いただきたい。その計画を作る時にやり方として議論されると思うが、要はトップダウンでいくのか、ボトムアップでいくのかということは、すごく考えたほうがいいと思う。下からいろんなアイデアを出していくやり方で進むのか、いやいや課長、市長の号令で10%切る、5%切るという要はトップダウンというやり方なのか。トップダウンのやり方は特に非常に危険なので、よくバランスを見ながらやったほうがいいと思うし、ものによっては両方併用するのもいいかと思う。そこはもう市役所が、とりあえず計画表を作ってほしい。前もお話したが、私が会社に入って、私の会社は倒産するかもしれないというふうに脅された。シャープペンシルの芯は1日5本まで、消しゴムは4分の1ずつ管理する、紙のコピーは1人10枚だけ。オーバーした場合には始末書を書けとかいう感じだった。すごい締め付けであった。民間だったらそれができるが、市役所の中だけでお金を使っているわけではないので、同じではないと思うが、民間ではそんな感じでやっていた。先ほど課長が話したシティマネージャーが、民間の目で持っているなら、その人が提案したことはやっていいかなと思う。説明を聞いてそうだなと思ったことは以上である。一番大事なことはとにかく黒字化計画を作ってそれを市民に示すということではないかなと参考になればと。

○財政課長：はい。まさにそれを作ろうということである。もちろ

んどうとも言えるが、この行革大綱自体はもうすばらしいものができていると思っているが、なかなかそれを身に染みてやっていないということであった。おっしゃったとおり行政は取り組みが甘いと、今までやってきたところに対して前例のまま行っている事業もある。私自身もそれを感じながらもなかなか踏み込めていけなかったという反省や、今回こういう事態になって、改めて反省をしているところである。個人的にはそういう思いは今時点で持っているが、やはりこういうことやっていて直接的、間接的に市民の皆さんに負担をかけることも出てこようかとも思うので、そこは手順を踏んで市民にお知らせをする、手順を踏んで正式にお願いをするということとやっていきたいと思う。それからやり方としては、ワーキンググループで検討を重ねる、基本的にはボトムアップでやっていきたいと思う。ただし、それだけで足りない場合はトップダウンが生じる場合もあろうかとは思っている。その併用というまさに委員さんもおっしゃっているのもそのとおりになっていくのかなという思いがある。それからシティマネージャーについても、もうすでにいろいろと助言をいただいております、職員向けに行政の甘さと民間の厳しさという大雑把に言えばそういった題名で講義を行うようにしている。当然いる人を十分利用して民間のやり方も導入していかなきゃならないと、これはもう以前からずっと言われてきたことである

が。

○委員：もういい機会だと思う。

○委員：市民。私も一市民として是非応援するのでよろしく願
いする。

○財政課長：ありがとうございます。

○総務課長：ほか委員の方々はよろしいでしょうか。

（財政課長退席）

（１）事業評価を行う事業の選定について

○総務課係長：次回の評価対象事業を選定したい。委員の皆さまか
ら事前にご意見のあった事業が、58事業ある。その事業
から20～25事業程度選び、その評価は、次回行う。ま
た、質問対象事業として9事業挙げていただいたが、同
様に、回答は、次回行う。

一覧表をご覧いただき、58事業のうち、2次評価（総務
課長、政策推進課長）の結果を踏まえて審議の優先度を
事務局で3段階で判断した。この中で優先度が高い

（○）とした事業は既に23あるが、文化財関係の事業
がそのうち7つあるため、実質17事業である。実質1
7項目であるので、優先度を中（△）、小（×）とした
事業の中からあと数個加えたい。意見をお願いする。

○委員：今の話でざっと見て、一番上の「地域医療再生事業」は
入れてほしい。

○委員：それから「学校給食センター改築事業」。これは金額も

大きかったし、聞いて議論したいと思う。それから「特別支援員・支援教諭配置事業」。

○委員：「放課後児童健全育成事業」「一時預かり事業」「ファミリーサポートセンター事業」子育て支援の需要と供給は今どうなっているか。

○委員：「いじめ対策事業」は、不登校になり、ひきこもりになりというのが結構社会的大きな課題であるので検討願いたい。

○総務課係長：はい。

○委員：誰に支払う費用なのか。

○総務課係長：次回までに質問に答えられるように準備をする。

○委員長：さらに重要な社会問題だという観点からいけばお金の使い道がどうあるべきかというのを詳細が知りたい。

○総務課係長：はい。

○委員：「埋蔵文化財発掘調査事業」は、結構お金がかかっている。効果を確認し、継続の可否を検討して、重要性はまあわかるが。杵築中学校移転の時もいろいろ議論して埋め戻しができないかと言っていたが、国の文化財課が来て、絶対にしてはいけないということで、結局違うところに土地を買って、そして建った。でも、それは市民は、どれだけ興味があるか、国の助成金で済むわけではなく、ほとんどが市が持ち出しである。これはどう今後活かしていくのか、掘ってそのままにしておくとか、どのくらい市民の皆さんが興味があってそれにお金をつぎ

こむ効果があるのか検討すべき。もし効果があるならもうちょっと市がアピールしたり、教育に活かすか、観光に活かすか、取組んでいかないとお金は出すけど生かされていない。

○委員：私も同じである。あんまり関心が無いのではないか。

○委員：結局、最初のほうは市民の皆さん見学にきてくださいという広報もあって最初はそんなものが出たのかということで皆さんも見に来たが、それから何の音沙汰もなく、あれどうするのっていうような感じで、そういう問題点があるのではないか。

○総務課長：原課もそれは感じている。国指定になっていけば当然活用まで含めた国指定である。補助金も10のうちの8割は出して活動計画ができる、その方針を今立てているところである。杵中が移転し、あそこが今度は御殿の庭ということで整備するが、現状を維持しながら、言われるように市民の人に地域の宝、こんなにいいものが杵築にあるので見に来てもらうこと、観光客にも見に来てもらうことをお金をかけずにやるにはどうすればいいかというのを悩んでいるところである。また、私も評価に書いたが、古墳とお城と御殿の庭と一般の埋蔵物の開発行為の調査ということで、何もかもできる状態じゃないので、優先順位をつけてしたらどうかということである。

○委員：御塔山古墳も美濃山古墳も石田市長のときにあんまり言うのと、結局いろいろ手が入って壊されるから、良いか悪

いかわからないが、そのままにしておくということも一案あって、あのままにしていた。でもこういう素晴らしい遺跡があるのでということで、今回、小熊山古墳は公表したが、市民が見に行くような場所はあるのか。

○総務課長：古墳は今言われるように、第一段階としてはあたらず、触らずそのまま置くというのが文化財の中では基本である。石田市長のときはそれで来ている。ただ、開発行為があって、土地を買い上げられて、住宅とか別荘地にすることで切り売りされるようになったので、困るということで、表に出して行って国の予算を8割いただいで買収している。3,000万円近いお金の中の8割が国であるが、そういったお金がかかっているというのが現実である。では、見に来ているかということ、古墳があってもそれを活かさきれていないというのが現状である。

○委員：まだあの中は調査しているのか。

○総務課長：していない。頭頂部とよばれる一番てっぺん石棺があるだろうと言われていたところについてはまだしていない。

○総務課長：先ほどの委員さんからの意見にも重要性を理解しながらであるけど、財政の中で、このまま先延ばしできるものであれば先延ばしにして、お金ができたときにという意見もあると思う。

○委員：これは次回議論するのか。

○総務課係長：はい、次回。

○委員：もう一個、「横岳夏祭り開催事業」。なぜかという大田のイベントは、少ないと思う。それでなくても地域の人の楽しみがなくなってどんどん地域離れしていて、独自ですること考えている中で、これが剥がれたらまた楽しみが減ると思う。合併したからこそ、そういう痛いところにもなんか手を打ってほしいと思う。予算的に厳しかったらいいが、一応検討項目に入れていただきたい。

○総務課係長：はい。これで24項目になった。本日選んだ事業の評価を次回行うということでよいか。

○委員：よい。

(2) 第3次行政改革大綱実施計画の進捗管理について

((2) 第3次行政改革大綱実施計画について事務局より説明)

○総務課係長：第3次行政改革大綱実施計画の進捗管理について、大きい項目としては45項目であるが、実際の項目数は、例えば未収金対策は複数課に未収金があるため実際の項目数は複数ある。大項目は同じ未収金対策であるが枝番として複数あげている。その結果、実際の項目数は72項目である。進捗度は何%、評価はA、B、C、Dとあり、所属長の一次評価、総務課長の二次評価まで終了した段階の評価を書いている。A. 予定通り実施が39項目、B. 一部実施が31項目、C. 未実施が0項目、D. 中止が0項目ある。この進捗度と進捗評価がこの評価でいいのかどうかを判断していただきたい。最終的にはこの委員会の評価が最終評価となる。それでは1

番から順番に、進捗度、評価を決めていただきたい。

1 番 協働のまちづくりの推進

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

2 番 男女共同参画の推進

[質疑、意見なし]

[進捗度：75% 進捗評価：B. 一部実施]

3 番 住民自治の充実

○委員：委員さんは何人いるか。

○総務課係長：規約上は10人であるが、7人である。

○委員：女性は入っているか。

○総務課係長：入っている。

○委員：開催回数はなぜ1回でいいのか。

○総務課係長：まず事前資料を配布し、その後、書面で質問をもらった後に委員会を開催し、回答をするので1回で終わることができる。

○委員：内容的にはそれで問題ないのか。

○総務課係長：内容は、すごく範囲が広い。結局、行政全般何が質問に上がってきてもいいので、どんな議題になるかがわからない。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

4 番 市民活動に対する支援機能の充実

- 委員：どういう活動があげられるのか。
- 総務課係長：以前あったのが御所車の倉庫や檜の修理、映画祭、河津桜や横岳のアサギマダラなどである。
- 委員：対象は、市民団体というかNPOか。
- 総務課係長：NPOには限ってない。地縁団体でもいい。公益性の高いもの。
- 委員：御所車とかは要するに地域の人たちがしているのか、谷町とか。
- 総務課係長：はい。
- 委員：それは杵築市の文化ということでそういうのを修繕してほしいという申請が来るのか。
- 委員：昔は一つ一つの例えば据場とかそういう地区の人達が修理していたと思う。それが今なかなか厳しい。昔は商店があって、その人達が出していたんだらうけど。そういうのがどんどん減ってきて、修繕修理もやっていけないという形だと思う。
- 総務課係長：なので、この制度を利用していると思う。
- 総務課係長：市指定の文化財とかになっていると、県の補助対象にもなるが、それがいない場合はおっしゃるとおり今まで地元で守って地元で支えてきたが、その制度自体がなく補助金も削減をされてきているので、難しいという中で、こういうの制度を利用したという経過もあると思われる。
- 委員：そもそも上限が決まっているのか。

- 総務課係長：はい。
- 委員：これは団体の人達が提案をするのか。
- 総務課係長：そうである。
- 委員：要は補助金をもらわなくても、自分たちの活動がうまく
いっているんだったら、提案はしないはずである。
- 総務課係長：そうだろう。結局予算的なものが厳しいというところ
がある。
- 委員：それに対して、役所のほうが進捗は50だ、70だとい
うのはある意味おかしな話である。役所が一生懸命頑張
ったところで、向こうがいらなないといえは数が減る。
- 総務課係長：はい。
- 委員：だったら、むしろ一番大事なのはそれを必要とする団体
がこういう仕組みがあることを完全に知っているか、周
知徹底されているかどうか。
- 総務課係長：団体の人達は知っていると思う。
- 委員：だから団体の人達がきちっと提案している、何か困って
いるから頼もうと思えば頼んでくるし、困ることがなく
て活動が十分であったら自分たちでできる。別に来なく
ても、それは役所のせいではないし、それで進捗度が5
0だとか妙な話だなと思う。誰の進捗度かなど。
- 総務課係長：確かに。
- 委員：でもこれはたぶんこれでいいかと思う。
- 総務課係長：役所としては目標10団体にしたいところであつた
が、広報に頑張らなかつた結果かもしれない。

○委員：そうそう。だから一番大事なことは周知徹底されていて、こういう活用の中で活かされているというところを役所として確認しとけばいいかと思う。強いて言えば6件あって1件だめだったところが次回から頑張るということである。進捗度はここはあまりこだわらない。

[進捗度：50% 進捗評価：B. 一部実施]

5番 市民提案制度の充実

○委員：これは3団体減ったということなのか。

○総務課係長：そうである。次回、どういう団体かの資料を用意する。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

6番 意見箱・メール等による意見聴取

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

7番 市民満足度調査の実施

○委員：結果は出ているのか。

○総務課係長：出ている。

○総務課長：議会やもちろん市民の皆さんにもこれから市報等を通じて明らかにしていく予定である。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

8番 市政情報の積極的な公開・提供

- 委員：インスタグラム研修というのはどういうことか。
- 総務課長：携帯、スマホを使って杵築市をコマーシャルする。いかに発信するかというのを職員がやろうということで研修をした。初めての取組である。
- 委員：それで「いいね」とか来るのか。
- 総務課長：そうである。お城をバックで写真を撮るとか、杵築ど～んと井とか、こういうインスタ映えを狙って若い層の誘客、それから杵築に誇りをもってもらう、そういう渦を巻き起こすために、職員から発信しようという研修をしたというところである。
- 委員：27名の受講者は若い人ばかりか。
- 総務課長：観光に関係ある、ふるさと産業館や和楽庵などの外郭の人達も参加した。
- [進捗度：75% 進捗評価：B. 一部実施]

9番 総合窓口サービスの推進

[進捗度：－ 進捗評価：－]

10番 環境保全の推進

- 委員：これは毎年動きがあるのか。
- 総務課係長：計画自体は3年とか4年で、その計画の個別計画に対して進捗がどうだったかというのを審議している。
- 委員：審議会では、この公害防止協定締結案件とかいうそういう案件が出てくるのか。

○総務課係長：確認する。

○委員：これは杵築市の環境が悪化しないように、保全のためにいろいろ取り組んでいるということか。環境保全活動団体は具体的にどういう団体なのか。

○総務課係長：次回保全計画を準備する。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

11番 指定管理者制度による管理運営の推進

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

12番 アウトソーシング（外部委託等）の推進

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

13番 水道事業の統合

○委員：相原簡易水道の上水道への統合というのは、あそこは今まで簡易水道だったが、市の上水道が通るようになったのか。

○総務課長：はい。つながった。

○委員：JR杵築駅の辺の上下水道は、まだあそこまでいっていないのか。

○総務課長：いっていないと思う。上水だけで、下水はいかない。

○委員：気になったのは1番上は予定通り実施。2番目はやらない理由を見るとできなかったのが早急に業者発注って

書いている。この内容がわからない。自分たちでやることでほかの仕事もあるので忙しくてできなかったということであれば理解できるが、自分たちでじゃなくて業者に発注してやってもらう発注業務をするだけだったら、すぐにできるのではないか。なぜそれをやらなかったのかということのほうが、問題のような気がする。なおかつ気になるのがそれを1年延ばしても何の問題もないのかとなれば、じゃあそんなに急いである必要もないと、金がかかるのであれば、必要ないならやらなければいい気もする。緊急度がなければ。そこはちょっとわからないが。でも1番は、なぜ遅れたのかというところ。

○総務課係長：これは確認をして次回報告をさせていただく。確か、時期的なものは、会計制度が変わる関連の何かだったと思う。

[進捗度：保留 進捗評価：保留]

14番 図書館運営方法の見直し

○委員：副館長は公募したのか。

○総務課長：公募というか推薦である。大学からの派遣である。

○委員：以前、せっかく公募で来た館長さんが、辞めたみたいであるが、市民に親しみやすい図書館ということで作った図書館なのに、最初からつまづいて、今まで頑張ってきた読み聞かせとか、そういうグループさんたちを締め出しているところがあった。今はどうなっているんか知ら

ないが、そういう人たちが議論してきたことが、実現できているかが疑問である。何回か図書館にも通っているが、なんかこう立ち入りにくいというか、あんまり入ってない印象である。まあ4時、5時くらいに行くと、学生たちが勉強しているのは見かけるが。利用状況とか見てみたい。

○総務課係長：承知した。利用状況は次回準備する。

○委員：運営委員の委員さんの名簿。

○総務課係長：運営委員の名簿も次回準備する。利用者は確実に伸びている。

○委員：一つありがたいことに山香の図書館を少しでも杵築の恩恵を受けたいと思って、お願いしたら、去年ぐらいから絵本を変えてくれたり、それから単行本も杵築から持ってきて入れ替えてくれたりというふうに、とても耳を貸してくれて活性化しようとしてくれている。行く側としては行ってみようかなという気になるので、それを推し進めていただけるとありがたい。

○委員：これ2つ。1つは民間委託を検討しているのか。

○総務課係長：はい、検討はしているが、図書館の職員のヒアリングの際の話では、図書館は結局儲けることが目的ではない。武雄市のような例はあるが、本があって貸すだけなので儲けようがない。民間が入っても赤字なので、つまり人件費の分は委託料を支払うことになり結局市の持ち出ししかない。そうなったら今の、いわゆる直営で、臨

時さんで直営でやったほうがたぶんうまくいくだろうという思いがあるそうだ。また、直営でやるっていうのが一番最初建てる時の決定事項であった。

○委員：決定事項。

○総務課係長：決定事項である。

○委員：じゃあもう直営でやって、なおかつ館長がいるかいないかで運営体制とか、組織体制が変わるといのはなんとなく違うと思う。そんなことはもう迷わず、今の時点でこの方式でいくんだということであれば、それで突っ走ったらどうなのかなと。それで直営であと3年くらいやってみて悪かったら変えればいだけの話。図書館はこうなると決めておくことはできないのか。要は何が言いたかったか、取組項目が多すぎる。効率よくやっていくためには何かを切り捨てなければならないから、これでいこうっていうのに決めればいい。それは館長が居ようが居まいが関係なく、館長がきたらその運営方法でやるからと言えばいい。今、私は図書館を使っているが、ぜんぜん悪くないと思う。何が悪いのかわからない。直営が決定事項なら、こんなにずっと運営の話をしなくても。

○総務課係長：最初は直営でやると決めていたのはさっき言ったとおりである。今後どうするかという答えを出すというのをもうこの4年以内に出すことが目標だったと思うので、近々そういうのが出ると思う。

○委員：今の図書館ができる時に、直営でやると決めたのは武雄市方式でだめだということで、民間ではなく直営になった。その中で民間活力導入というのは、伊万里図書館は、市民の図書館であるという意識で、ボランティアさんがいろんなことをしている。結局有償ボランティアではなく、無償ボランティアでやっている。それで図書館を回して、少しでも民間活力を活かしてボランティアさんを活かそうというのが伊万里図書館であった。それを杵築市でも取り入れたいというのが一つの新しい図書館づくりの皆さんの意見だったのに、それが今できていない。だから館長さんやそここのところを内部がしっかり認識しておかないとうまくはいかないんじゃないかと思う。

[進捗度：50% 進捗評価：B. 一部実施]

15番 地区公民館の事業と運営方法の見直し

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

16番 市立幼稚園の見直し

○委員：杵築幼稚園は4名。検討、改善策をしているんだと思うが、果たしてそれで幼稚園の児童が戻ってくるかどうか。

○総務課係長：実際、一部からは幼稚園のほうがいいという需要の声もある。だからまずは、預かり保育を今回から始めて

みてそういった要望にお応えして、預かり保育がないってというのが幼稚園のデメリットであるため、それを改善した上で、皆さんの動きを見て、最終的な判断をしたいというのが教育委員会の考えである。行革の視点では、幼稚園は無いほうがお金がかからないというのが答えだと思う。なかなかそうはいかないというところである。

○委員：預かり保育をした場合、予算的に増えるのか。

○総務課長：結論から言うと増える、若干。

○委員：若干。

○総務課長：今の幼稚園教諭だけでなく、委託で専門の方を入れるので、委託料の分高くなる。

○委員：放課後クラブのような形ではないのか。

○総務課長：違う。預かり保育である。3時から6時まで。本来は1時半であるが今は3時までになっている。3時から6時までを預かり保育。

○委員：夏休みはどうなるのか。

○総務課長：夏休みは、8時半から6時まで。

○委員：保育をしている先生が何名かいるが、その先生たちは関わらないのか。

○総務課長：関わる。交替制である。毎日幼稚園教諭が順番に来てプラス委託の方が来て2人体制で。

○委員：委託ということは、人件費がかかる。

○総務課係長：幼稚園の先生分はかからないが、委託料が単純に発生する。

- 委員：先生の勤務時間が4時として、預かり保育して基本6時までとなったら、2時間の延長になるが残業代が発生するのか。
- 総務課長：外部の委託料は数字が出ているが、先生の分は判断できない。それと、杵築幼稚園でやるので他園からの職員の応援というのもある。
- 委員：気になることがあるが、昔、水曜日は研修会があるからと言って早めに子どもを帰していた。水曜日は1時半、他の日は3時までだった。保護者からの要望で、水曜日も3時までにした時に職員の説得に苦労した。預かり保育をするって言ったときの職員さんの意見っていうのはどうだったか。
- 総務課長：所管が教育委員会なので、間接的に聞いているのは職員と教育委員会がよく話し合っていて、今回の結論に至っているということである。それは、こども園があるけども幼稚園を望むという声もあるので、ではそれを実現するには預かり保育があれば、幼稚園に私のこどもを行かせたいという希望もあったということで、6時という設定に至ったと聞いている。幼稚園教諭との話し合いは持たれていて、幼稚園の先生の協力も得られるから踏み切ったというのが、今議会に出したまでの時点で現状である。
- 委員：よかった。そこがものすごくネックであった。
- 総務課係長：幼稚園の先生からも積極的な協力を得られたという

ふうに聞いている。

○委員：それならよかった。いつから実施するのか。

○総務課係長：10月1日である。預かりは10月から始める。

[進捗度：80% 進捗評価：B. 一部実施]

17番 市立小学校の適正配置

○委員：これも毎年まだやらなきゃいけないものなのか。毎年調べる必要があるのか。

○総務課係長：はい。児童数の推移を見て計画を立てる。

○委員：毎年なのか。令和2年度の目標になっているが、それ以降もやるのか。

○総務課係長：やると思う。

○委員：わかった。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

18番 包括支援センター組織の見直し

○委員：新センターの開設というのは新たに作るのではなく、今ある健康推進館の窓口みたいに施設を利用して開設するのか。

○総務課係長：新たな箱モノを作ったりはしない。組織作りというイメージである。組織、人が動くイメージである。

○委員：言葉から想像すると全世代対応型となっていて、一見、ものすごいことをやるような気がするが、杵築市の身の丈に合っている業務内容だと思っていいのか。ほかの市

はやっていないけど、杵築市はやりたいとか、そんなことで改善策を見ると中身はわからないが、ものすごいお金を突っ込んでいくような気がして。

○委員：そうそう。

○委員：もし、その身の丈に合っていなかったらやめたほうがいいと思って。

○総務課長：この事業の検討には、もちろん財政課長も入ってくる。その視点で厳しく見るということもあるし、この計画自体が経費をかけてやらない方法での形を目指している。

○委員：なるほど。そこはやっぱりお金には是非歯止めをかけてほしいと思う。

[進捗度：50% 進捗評価：B. 一部実施]

19-1 番外団体の見直し（杵築市総合振興センター）

○委員：改善策に、売り場の見直しって書いてある。2、3回寄ったことがあるが、あんまり寄りたくない雰囲気であった。というのが、食堂もあるけどそこにいるおばちゃんたち仕事がなく座っていた。認知度がないのではないか。

○委員：あそこが杵築の中心の産業館と言われればそうだけど、外からもわかりにくいし、中に入ってもキラキラしていない。何か買ってみようとか食べてみようっていう、目玉の品物もないし。正直なところ、たくさんいい人材が

いるのに、なんで変わらないのかなっていうのが悔しい。だからちょっと検討していただけるとありがたい、そしたら絶対売上伸びると思う。

- 委員：やっぱり韓国からの観光客は今少なくなっているのか。
- 総務課係長：湯布院、今日の新聞でも記事になっていた。
- 委員：落ち込むと思う。産業館には、ほとんどそういう外国の方の観光客のバスが止まっている。
- 委員：でもバスで観光客が来るのにもったいない。あとは売り場の問題である。杵築の商品もだいぶ売れると思う。

[進捗度：79% 進捗評価：B. 一部実施]

19-2番 外郭団体の見直し（杵築市地域活性化センター）

[質疑、意見なし]

[進捗度：30% 進捗評価：B. 一部実施]

20番 ケーブルテレビ事業の管理運営方法の見直し

- 委員：詳しくわからないが、民間の光回線とケーブルの光回線とはどう違うのか。
- 総務課長：まず、光回線にする理由はHFという銅線を使っているがその耐用年数が12年で、すでにもう14年、15年で経ち、いつそれが壊れてもおかしくないというのがある。幹線を銅線にするのか光ケーブルにするのかというのを庁議の中で市の方策として決定した。
- 委員：銅線を光ケーブルにする。
- 総務課長：はい。光になるとどうなるか、それは双方向の通信の

可能でそれに乗っ取った事業の展開ができる。それから光だと設備構築コストの削減や、なおかつ光のケーブルは銅線ケーブルよりも5年程度寿命が長いので20年くらいは頑張る。また、銅線はマイナーな商売になったので、部品は高くなる、在庫はない、技術者はどんどんいなくなるので、良いことがあまりないという判断が市としての8回ぐらい会議をしての結論である。

○委員：そうすると、目標杵築地域が2,000世帯で、採算はどうなるのか。

○総務課長：採算は今の経営で行くと、大体3,000万円。使用料と経費を引くと2,500万円～3,000万円の黒字経営である。ただし、ケーブルのこういう何十年二十年に一回の設備投資を入れたときは、その金額では、正直今の860円の基本料金やSTBと呼ばれる基本料金、特別料金の金額をもう少し上げないと運営としては成り立たない。

○委員：今度、新しくなると今つけてる人はみんな入ることになるのか。

○総務課長：これ基本は今みなさんがお使いいただいているものに一切お金をかけずに、自費でやっている。

○委員：はい。

○総務課長：宅内まで。ただ、一部不具合があってその原因がお客様にあった場合はいくらかの工事費ということはあると思う。

- 委員：結局基本料金が今度また消費税10%になるとちょっと上がるけど、また光回線にすると上がるのか。
- 総務課長：現状は、この導入を決めるときに議員さんの質問の回答としては、この行為による上乘せの料金改定はしないという方針を庁議で決めている。ただ、未来はどうかと言うとそれもお答えしているが、人口減による世帯数の減、今は95%ぐらいの加入率であるが、加入するお客様が減っていけば収入が減るので、これによっては利用料の改定もやむを得ない。
- 委員：未収金もあるし。
- 総務課長：未収金はもうこれからなくなると思う。要するに見れなくなる。1回目催促して、2回目催促して、3回目はもうお客さん申し訳ないが、料金いただいていないので見ることができなくすることが可能になる。
- 委員：ストップをかけられるのか。
- 総務課長：ストップがかけられる。ライフラインではあるが、命まではかからないと。
- 委員：そう思う。これは防災ラジオとも引っ付いているのか。
- 総務課長：防災ラジオと連動している。
- 委員：そうすると緊急のときは必要かもしれないが、普通生活には直接これがなくても関係ない。
- 総務課長：市民チャンネルと呼ばれる4チャンネル。それから防災ラジオ、台風や地震等における緊急放送では逆に言うと、テレビカメラのライブが映っていないとか、もっと

ラジオとテレビで避難者の数とか場所を広報するべきとか、生放送はできないのかとかそういう意見もある。9割以上の人が見ていて、そのうち防災関係などの困りごとが起こるときの1つのツールとしては、重要性があると思うし、イベント告知もそれから市民の情報としての提供も。

- 委員：あとは、加入率維持のため、どういうふうに皆さんに周知徹底をしていくかである。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

21番 市立病院の在り方についての検討

- 委員：これは、市立病院あり方の検討と市立病院の経営改善の支援2つのことをやっているのか。

- 総務課係長：はい。

- 委員：在り方の検討と支援。本来は別々の話にしてもいいぐらいの項目だと思う。在り方については、一応今のところ凍結と置いていいのか。

- 総務課係長：はい、そうである。凍結である。建築の市場の高騰ということである。

- 委員：そうすると、凍結なら凍結ということでこれははっきりしているから、今後はお金はかかかっていかない。

- 総務課係長：結局、オリンピックが終わったら建築の市場価格が下がるのではないかというところがあるので、それからまた再検討だと思う。

- 委員：それはいいが、それは先の話なので、在り方についてこれからもお金がしばらく調査費用とかがかかることはないのか。
- 総務課係長：ない。県とか国とかその辺のパイプをもって経営改善していく。
- 委員：そこもやっぱり凍結なら凍結で、動きははっきりストップしたほうがいいと思う。もう1つは経営改善の支援ということであるが、私が見ていないのは、本来はこれは市立病院が自分でやるべき話であって、なおかつ市が支援をしなきゃならない。市が支援をして市立病院に役に立つことってというのは一体何なんだろう。国・県の医療政策や建設市場の動向についての情報収集をするって云々と書いてあるが、それを市がやる必要ないんじゃないかと。それはもうむしろ市立病院が自立的に、自分ところの経営を黒字化していくために、必死で頑張ればいいんじゃないかなっていう気がしてならない。前から何回も言っているが、いつまでもズルズル感があるって言っていたのは、そういう意味である。
- 総務課係長：はい。これは一回は在り方委員会は止めた。だからこの項目はなしという話をしたが、実際検討する係ができて、実務を行っているので項目を残している。
- 委員：それがいけない。
- 総務課係長：ただ、係があるのも事実。
- 委員：そういうのは今回の改革の中でやっぱり…。

○総務課係長：今のことを、何をしているのかというのを再度確認する。

○委員：いや私もわかる。ただ、組織を作ると仕事を作ることになる。そこにお金を作って、置いていく。だからどこかで今の局面から言ったら、これは止めた、やっていないというふうにしないと進捗度 100 %、経営改善 100 %と言われてもなにしたのかと疑問である。

○総務課係長：詳しく報告できるものを用意する。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

22番 本庁支所方式への移行

[進捗度：－ 進捗評価：－]

23番 組織機構の見直し

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

24番 定員適正化の推進

○委員：次年度の採用者数の減員をするのは仕方ないと思うが、私はできるだけ本当に必要なら採っていくべきだと思う。

○委員：職員っていうのは大事だと思う。ここを減らしていったら市の耐力が落ちていったら何の意味もなくなる。そこは是非、減員するときにはほんとに慎重に考えて、財政的に我慢できるなら、増やしてもいいんじゃないかと

思う。

○委員：減らしたために、あとでひどい目にあうのはこわいと思う。

○総務課係長：はい。

○委員：今回千葉とか災害があったが、そのときにやっぱ市の職員が手薄でほんといろんなところに配慮ができなくて、ああいう後々の影響も考えて、例えば防災士もいるが、やはり、専門のそういう行政機関の人がいるほうが、市民に手厚くできると思うので、あんまり採用者数の減員をすると、何かあったときにやはり市の職員の人数がいたほうがいいと思うので。

[進捗度：75% 進捗評価：B. 一部実施]

25番 嘱託員・臨時職員の適正配置

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

26番 給与の適正化

○委員：これで適正化なのか。適正化ならいいが、これもさっきと同じでなんかむやみに、給料をカットするとやる気をなくす。

○総務課係長：むやみにではない。

○委員：それならいい。ちゃんと適正だったら、適正じゃないってことは適正になったときにそこまで高くもらっていたのかって言われる。

○委員：会社だったら、株主総会でいつも言われていた。ほんとに適正ならいいが。

○総務課係長：はい。適正化である。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

27番 諸手当の見直し

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

28番 人材育成の推進

○委員：ここはもう是非是非人材育成はやってほしいと思う。

100%を切らないようにお願いします。

○総務課係長：明日もシティマネージャーからの研修を実施する。

○委員：人材は宝なのでよろしくお願いします。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

29番 人事評価制度の推進

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

30番 職員提案制度の推進

○委員：少ないのではないか。

○総務課長：提案の中身は、1つは楽天イーグルスの平石監督を応援するツアーを実施して、東北の人たちからふるさと納税をしてもらって、市の収益をあげようというそういう

提案であり、これは実現して8月21日に行った。テレビで今流れている。あとは職員研修ということで、先輩から後輩に伝授できるもの、それから中間層の人が一生懸命やっているが、でもこんな問題があったり、こんなことを抱えているとか、そういうような研修を年代に応じて、やろうっていう提案があった。採用されなかった提案もある。確かに数は少ないが、積極的な意見が出たのが今年度だったなという印象なので、ここは100%だと思う。

○総務課係長：数は確かに少ないとは思いますが、毎年しっかり継続していきたいと思う。

○委員：職員も、頑張って提案して出来なくてもこういう意見を持っているということを提案できるようにいい方向につなげてほしい。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

31番 庁内システムの最適化

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

32番 情報セキュリティの強化

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

33番 事務マニュアルの整備

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

34番 健全な財政運営

- 委員：役所の運用というのはわからないが、予算規模が217億に対して221億で、まあ4億くらい。これってオーバーしているからもうないよとかいうアクションとかはないのか。
- 総務課係長：財政課長がいつも言っていると思うが、入りがあって出があるっていうのがほんとであるが、歳出が先に決まる。変な話であるが。歳入を基金などで財政課がなんとか工面してきた、それだから悪いんだと思う。ほんとは原課が予算要求するときに歳入を見るべきである。
- 委員：そうである。
- 総務課係長：その感覚が正直役所にはない。私も正直予算査定するときに結局自分の支出が何が必要かっていうことばかりである。
- 委員：はい。
- 総務課係長：必要なことは決まっているから、それに対して収入は、正直、私の場合ほとんど一般財源で特定財源などないので。もちろん無駄はないつもりである。
- 委員：もちろんである。
- 委員：今後期待で。
- 総務課係長：はい。

[進捗度 : 30% 進捗評価 : B. 一部実施]

35番 新地方公会計の整備

[質疑、意見なし]

[進捗度 : 100% 進捗評価 : A. 予定通り実施]

36番 財務事務の見直し

[質疑、意見なし]

[進捗度 : 100% 進捗評価 : A. 予定通り実施]

37番 公営企業の経営健全化

[質疑、意見なし]

[進捗度 : 100% 進捗評価 : A. 予定通り実施]

38番 特別会計の見直し

[質疑、意見なし]

[進捗度 : 100% 進捗評価 : A. 予定通り実施]

39番 公金預金の運用管理

○委員：債権を売るというのはどういうことなのか。市役所が持っているのか。

○総務課係長：持っている。共同発行市長公募地方債とか、それがほとんど。大阪府や東京都などそういったものである。

○総務課係長：購入先はほとんど証券会社。これの買い手がたぶんいる。これをそのまま保有してもらい利子よりも今売った方が儲けるから、今、売るということである。

○委員：利子収入と、売った収入が70万円とそんなにそこまで大したことない。

○総務課係長：大したことはないが、利ザヤを稼げるとき稼いでおいて、現金化しておけば、有利な商品の購入などに今後柔軟にできるということである。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

40番 使用料の見直し

[質疑、意見なし]

[進捗度：50% 進捗評価：B. 一部実施]

41番 税収の確保

○委員：研修派遣は大体何人くらいか

○総務課係長：毎年1人である。あんまり一気に行かれたら今度は現場が回らないので、行けても1人である。人を育てるのは大切であるが、今年はいないというところである。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

42番 未収金の対策

○委員：未収金の中に健康保険税とかいろいろあるが、介護保険料で今高齢者が多いので、その中に軽い認知だったりする人もいる。そうすると督促が来ても理解できずに、もう何回督促状出しても、市に何も連絡はないから、市は法律に基づき、その人の預貯金の中から引くわけである。そうすると、貯金を出そうと思ったら、なかったと

いうことで一回問題があった。そのときに、税務課にそういう状態であることをちゃんと把握して、そこにはヘルパーさんも来ているし、そういう人から状況を聞いて判断するべきだと思う。未収金の場合はちゃんと各課と連携を取って福祉とかそういうところで実態調査をするべきである。字が読めない人や何するのも全くできない状態の人もいるので、その連携を取りながら未収金対策をしてほしい。

○総務課係長：はい、気を付けたいと思う。そういった情報の連携も未収金対策ワーキンググループを通じてできると思う。

○委員：57、58、59ページは、進捗度50%としているが、基本的には電話や督促はしたけどお金は入らなかった。だから50%だという評価になっているが、お金を回収することが目的であって、お金の達成状況は0なので、進捗も0だと思う。これ以外のところはちゃんと得られた金額に対して比率で出しているから、そこは同じように考えた方がいいんじゃないかと、厳しめにみたほういいと思う。成果がやっぱり1番であり、成果で評価すべきである。それからもう一点は、市の職員が一生懸命頑張って汗をかいて電話して、督促してそれで入らないということよりも、法的な対応をやって、もうある意味最後通告、先程委員からの指摘で大変厳しいことがあって、よく状況を見なきゃいけない。それはその通りだと思う。

それは見なきゃいけないが、それを見つつ、やっぱりもう法的な対応をやっていくほうがいいと思う。会社にいると法的対応なんて当たり前である。

○委員：有無を言わず、理由なんかない。そこはやっぱり今後そういうのはもう少し、是非考えていただきたいと思う。

○総務課係長：はい。考えていきたい。私債権のほうも、要は訴訟を起こすということ、そういったところを視野に入れる。

○委員：会社の場合は必ず訴訟ですから、訴訟合戦である。もう電話もしない。ある日突然訴状がやってくる。そういうことを前向きに考えて。これある意味不公平である。

○委員：災害援護資金貸付金113万円は何か。

○総務課係長：平成8年くらいに、杵築市に台風が来て八坂川が氾濫した。そのときに床上浸水した家があって、所得がない人に対して家を修繕するための資金を貸し出した。この貸付金で被災した人は家を改善・修繕した。この方はその後自己破産をした。もう自己破産しているのでどうしようもない。本来もっと早く債権放棄すべき案件だったができていなかったため、今回放棄した。

○委員：最近のものではないのか。

○総務課係長：最近のものではない。

42①、②、⑦、⑨～⑪、⑬、⑭、⑯、㉓番

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

42③～⑤、⑧、⑫番

[進捗度：99% 進捗評価：B. 一部実施]

42⑥、⑳番

[進捗度：50% 進捗評価：B. 一部実施]

42⑮～⑰、㉑番

[進捗度：0% 進捗評価：C. 未実施]

42⑲番

[進捗度：25% 進捗評価：B. 一部実施]

42㉒番

[進捗度：79% 進捗評価：B. 一部実施]

42㉔番

[進捗度：17% 進捗評価：B. 一部実施]

42㉕-1番

[進捗度：83% 進捗評価：B. 一部実施]

42㉕-2番

[進捗度：98% 進捗評価：B. 一部実施]

42㉖番

[進捗度：96% 進捗評価：B. 一部実施]

43番 普通建設事業費の年度間平準化

○委員：これは、結果的にこうなったという話なのか、もともと計画があって、平準化するためにこの仕事とこの仕事は止めよう、これは次に延ばそうという計画でやったのか。計画をしてその計画が結果的にこうなったというならいいが、何もしなかった状態で、今年どうやったかなって言ったらそれはあんまりである。

○総務課係長：計画はある。大きくずれた理由の一つとして、杵築中学校の事業で繰り越しをした分がある。完成が遅れて繰り越されて、でも繰り越された年度にやる事業は決まっているから、ダブルになった。

○委員：なるほど。では計画的にやったうえでの結果であると。

○総務課係長：はい、そうである。

○委員：まあそれならまだいいが。

[進捗度：30% 進捗評価：B. 一部実施]

44番 補助金等の見直し

○委員：これはもっと進捗度を上げていいと思う。額的には達成しているのです。

○委員：だけど、基準の見直しが必要だということで厳しめである。

○総務課係長：結果的に下がっただけという思いがある。

○委員：なるほど。

[進捗度：30% 進捗評価：B. 一部実施]

45番 事業評価の実施

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

(3) その他

○委員長：最後に意見、質問等はないか。ないようなので、次回の日程を決定する。

- 総務課係長：次回は、10月上旬に開催したい。
- 委員長：次回は、10月8日（火）の開催とする。